

学校教育目標	【校訓】よく考え よく気づき やりぬく子供の育成 自他を尊重し、主体的に学び続ける児童の育成	経営理念	コミュニティスクールとして、学内外の教育資源を最大限に生かし、次代を担う人づくりを行うとともに、地域とともにある学校づくりを推進する。
--------	---	------	---

評価計画					自己評価					学校運営協議会による評価		改善方針		
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方針
							10月	1月						
確かな学力	2	主体的・対話的で深い学びの実現	1 個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実	○自律的に学ぶ子供が育つ理論や支援についての教職員の学び合いと実践 ○研究授業の実施(外部講師招聘)	・単元計画や授業づくりについての教師の肯定的評価 ・自律的な学びに関する児童アンケートの肯定的評価80%以上	3以上(4段階評価) 80%以上	教師の肯定的評価3.7 児童アンケート89%	教師の肯定的評価3.7 児童アンケート94%	教師123% 児童118%	4	中間と比べて児童が大きく伸びた理由として①学級や児童の実態を考慮した単元づくりや授業づくりを行った②教職員が協働的に学び合い、試行錯誤しながら研究を進めた③教員が自律的に研究を進めたことなどにより授業改善が進んだことが挙げられる。今後、教師の授業評価の基準と方法を見直すとともに、学習に向かうことに困難を感じている児童の状況やその背景の理解を深めるとともに、深い教材研究に基づいた個別の支援や環境づくりを学校全体で考え進めていく必要がある。	A	・児童から「学校へ行きたくない」という声は聞かれず、「学校が楽しい」という声をよく聞きます。 ・教職員の協働的な学びや授業改善等、前向きな取組が評価できます。 ・職員集団としての結束力が見られます。 ・先生方の教材分析の力が、児童の学習を進化させるので、教材分析力を向上させていってほしい。	・引き続き、自律的に学ぶ子供を育てるために、教職員の学び合いと実践共有を行っている。 ・教師の授業評価の基準と方法を見直す。 ・学習に向かうことに困難を感じている児童の状況やその背景の理解を深めるとともに、深い教材研究に基づいた個別の支援や環境づくりを学校全体で共有しながら進める。
			2 基礎学力の定着	○テスト結果の分析と指導 ○学習のつまずきに応じた学習支援の実施 ○ICTを効果的に活用した学習支援	・児童の学力定着状況:算数教科単元テスト80点以上(低80%以上、高75%以上)	低80%以上 高75%以上	低78% 高86%	低88% 高80%	低110% 高106%	3	今年度の算数科の研究に関わって、目標の設定や学習方法の選択の工夫、学習内容や学習力の振り返りを行った。また、思考の手段として図形の求積のシミュレーションや振り返りの入力等で、ICT活用の頻度や機会も増えた。それらは個に応じた支援となり、基礎学力の定着にも有効であったと考える。観点別にみると、「知識・技能」は、全学年目標値を達成しており、10月同様、「思考・判断・表現」に課題がみられる学年があり、実態に応じた思考力の育成に引き続き取り組む必要がある。	A	・授業を見て、子供がこんなことを理解しているのかと思い、改めて先生方の振り返りを意識して取り組まれたことが、学力アップにつながっていると感じます。 ・ICTの有効な活用方法について知りたいです。 ・児童が獲得した学習内容を、学び合いの中で確固とした自信になるよう、授業づくりを工夫してください。 ・「思考・判断・表現力」の向上は、授業での練り上げや活用力をつける問題を単元ごとに取り入れていく必要があると思います。	・校内研究において、個に応じたICTの有効な活用や児童実態に応じた支援について研修と実践を重ね、児童の学力の定着を図る。 ・毎時間の授業や学習の振り返り、反復練習、テスト直しの機会を丁寧にすすめ、2観点(「知識・技能」及び「思考・判断・表現」)の力をつけていこうとする。
			3 学びの土台となる学級づくり	○学級経営や児童理解に係る実践交流の定期的な実施	・児童の学級適応感の向上	学級適応感の向上	低83% 3年以上73%	低80% 3年以上81%	低96% 高111%	3	学級経営についての理論研修を行ったうえで、全学級で研究授業の時期にアセスメント交流会を実施し、教員全員で子供たちを見て学級の実態について考えることができた。各教室の教室環境や学級通信を見合う機会もつくることができた。各担任が実態を踏まえた支援を行ったことが学級適応感の向上につながったと考えられる。一方で、生活習慣や人間関係等で個別に支援を要する児童がいるので引き続き取り組んでいく必要がある。	A	・「クラス全員の子を育て上げる」という気風を感じました。 ・学級通信やその他の掲示物を見て、児童が楽しく、安心して過ごせる教室環境作りに取り組まれていることが分かりました。担任カラーが出ていました。	・引き続き、学級経営や児童理解に係る実践交流を定期的に実施し、学びの土台となる学級づくりを目指す。 ・全教職員が全校児童を見る意識をもち取り組んでいく。 ・生活習慣や人間関係等で個別に支援を要する児童がいるので、継続して取り組んでいく。
豊かな心の育成	1	自他を尊重し、児童の思いやりや協働意識を育成	4 自己肯定感の向上	○生活目標の肯定的評価を効果的に実施 ○児童による相互評価カード(年2回)の取組の充実 ○児童が主体的に活動する特別活動の充実	・「自分には良いところがある」と答える児童の割合85%以上	85%以上	82% 87%	102%	3	「自分には良いところがある」と回答した児童87%で目標値を達成した。日常生活場面や学習、学習発表会などの行事において、教師も児童間でも肯定的評価ができるような声掛けや振り返りをしてきたことが良かったと考えられる。また、生活目標によりお互いに感謝の気持ちを伝えることを促したり、委員会の取組で児童が自己アピールできる企画を考えたりしたことが、自己肯定感の高まりにつながっている。	A	・肯定的回答87%に驚きました。三津の子供たちには、いいところがたくさんあります。 ・自己肯定感ももてるということは、心が落ち着いて力を発揮できるということだと思います。 ・児童個人個人を支える教職員の取組と、児童同志の支え合いによる評価を大切にしてください。 ・自覚が形成され、自分を客観的に見るようになることと自己肯定感が下がることがあります。教職員(担任以外も)、児童同志、保護者、地域の方など様々な他者からほめられる機会が増えるといいと思います。	・全校朝会で前の月に頑張ったことを振り返るなど、生活目標の肯定的評価を効果的に実施する。 ・生活目標に合わせて、相手に感謝の気持ちで伝えるカードを活用する取組(年2回)を充実させる。 ・児童が主体的に活動する特別活動を、引き続き充実させる(委員会・運動会・学習発表会などで肯定的評価をする。)	
			5 共感的人間関係の育成	○縦割り班活動(掃除・遊び)の充実 ○相手意識をもって取り組む生徒指導重点目標「三津っ子スタンダード(挨拶・言葉遣い・掃除)」の定着	・「縦割り班で協力して活動している」と答える児童の割合90%以上	90%以上	94% 97%	107%	3	「縦割り班で協力して活動している」と回答した児童97%で目標値を達成することができた。日々の縦割り班掃除を継続し、それぞれが役割を果たしているように声掛けしたり、教師による肯定的評価を行ってきたこと、また、全校遊び等、児童会が中心となり、児童が協力できる活動にも取り組む達成感や満足感を感じられたことが、共感的人間関係の育成につながった。	A	・児童の家庭事情はいろいろあると思いますが、朝だけでもみんなといっしょに登校させて欲しいと思います。そこで人間関係や協調性が養われると思います。 ・縦割り班での活動や教職員による肯定的評価等で、共感的人間関係が育つこともよいと思います。 ・大規模校ではできない異年齢集団での関わり等をどんどん進めていってほしい。 ・班長になった児童が、しっかりするということがあります。下学年から頼りにされ、教職員から声を掛けられるといいと思います。	・「協力してできましたか」を、縦割り班掃除後の振り返り項目に入れ、自分たちでも共感的人間関係について評価するとともに教師も肯定的評価をする。 ・児童会が主体的に全校遊びを計画し、実施する。	
たくましい心と体	3	気力・体力の向上	6 体を動かすことへの意欲の向上	○ロング昼休憩の計画的な実施 ○縦割り班活動(遊び)の充実	・「運動が好き」と答える児童の割合90%以上	90%以上	84% 91%	101%	3	「運動が好き」と回答した児童91%で目標に達成した。全校遊びや学級遊びなどから、運動の楽しさを感じる児童が増えたと思われる。また体育の授業で自己達成感を感じることができた内容や遊びの要素を交えた活動をしっかり取り入れていったことも良かったと思われる。	A	・ロング昼休憩は、とてもいい取り組みだと思います。全校かくれんぼもいじりだすね。 ・1年を通して、体を動かす楽しさが感じられる活動をしていて、とてもよいと思います。 ・運動が結果主義にならないように工夫されていることはよいと思います。基礎基本の体力育成も確実に進んでほしい。	・体育の授業の最初にサーキットトレーニングを取り入れ、体の使い方を意識させることで、体を動かす楽しさを感じさせる。 ・がんばりカード(持久走・縄跳)で、自分で肯定的評価ができるようにすることで、楽しみながら運動できるようにする。	
			7 レジリエンスの向上	○体力カードを作成・活用し、適切な目標を設定させるなどの教師による足場がけの支援	・「目標達成に向けて、あきらめずに努力した」と答える児童の割合90%以上	90%以上	84% 88%	98%	2	「目標達成に向けて、あきらめずに努力した」と回答した児童は88%で10月よりも少し上がったが、90%は達成しなかった。一方で本年度は、体力カードを作成・活用し、自分で目標を設定して取り組んだ成果はあった。引き続き、発達段階に応じた適切な目標の設定や教師の肯定的評価、児童同志の相互評価により、粘り強くあきらめぬ心を育てていく。	B	・目標に向かってやり抜く力が育っていると思います。 ・簡単なことから「やればできる」という経験を積ませていくことが大切だと思います。けん玉、一輪車、竹馬など、勉強と関係ないことでもよいと思います。 ・楽しむ体力づくりに取り組んでください。 ・レジリエンスの言葉の理解が不十分なのかなと感じました。「達成はできなかったけれど、目標達成のために努力をした」ということあると思うので、努力したことをしっかり評価してあげてください。	・体育カードで、個々の実態に合わせた目標をもたせ、目標に向かってやり抜く意欲を持続できるような支援をしていく。 ・体力づくりだけでなく、様々な場面で児童の努力を継続する姿を評価していく。	
信頼される学校	4	地域とともにある学校	○学校運営協議会における協議の活性化による、地域学校協働活動の充実 ○生活科・総合的な学習における地域をフィールドとした探究的な学びの充実	・「地域が好き」「自分も地域の役に立ちたい」と答える児童の割合90%以上	90%以上	90% 94%	104%	3	「地域が好き」「地域の役に立ちたい」90%で、平均して94%であった。引き続き、「総合的な学習の時間」等に「自分ができることは何か」という視点で探究的な学びに取り組んでいる成果だと考える。地域学校協働活動推進員との密な連携は行うことができた。今後は、学校運営協議会による協議の活性化に取り組んでいく必要がある。	A	・肯定的回答が90%以上あることに驚きました。先生方の日頃の取組の成果だと思います。 ・小学校の取組により、子供の頃から郷土愛が生まれ、将来につながっていくと思います。 ・自治協の方にいろいろな行事でお世話になっているので、やがては、自分も地域のために役立ちたいと思うはずで、地域を知ることを深めていってほしい。隠れた地域文化がたくさんあります。	・今年度の学校運営協議会における熟慮で出た、「地域が好き」「地域の役に立ちたい」と思う子供を育てるための手立てを、できることから実現していく。(例:学校行事や取組への、保護者、地域の方のさらなる参加 等)		
		働きがいのある学校	○見通しをもった業務遂行のための、取組計画の見える化 ○チームとして協働し、教職員が互いの力を発揮 ○ICT活用における業務改善	・「子供と向き合う時間(教材研究等の時間を含む)が確保できている」と答える教職員の割合80%以上	80%以上	100% 89%	111%	4	「子供と向き合う時間が確保できている」と感じる教職員は、89%であり目標を上回った。校務分掌の平準化が難しく、業務分担が偏っていることへの見直しが必要である。一方、主任等で行う企画委員会において、主任が見通しをもって協働的に業務を推進できるよう、先を見通した業務の推進計画を提示するなどの手立てを行った。教職員への連絡事項の周知が効率的に行えるよう、引き続きICTを有効活用した。	A	・子供と向き合う時間を大切にされ、子供たちは安心して学校生活を送っていることと思います。 ・業務等を「地域にふる」ことで時間にゆとりを作って、その分児童についてあげてください。 ・チャットで分掌ごとのグループ等を作って、活用したらいいと思います。 ・地域住民の信託に応えるために学校ができることに、どんどん取り組んでください。	・引き続き、校務分掌の平準化に努めるとともに、ICTの効果的な活用による業務改善を進める。 ・来年度に向けて、時程の変更を行い、教職員が放課後の時間を効率的に活用できる体制を整える。		

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

達成値/目標値を百分率で表示す

■自己評価

4...目標を上回って達成 3...目標どおりに達成
2...目標をやや下回って達成 1...目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)

A...とても適切である B...概ね適切である
C...あまり適切でない D...全く適切でない
(N...判定できない)